

8月9日(火)発行

MUZA
KAWASAKI
SYMPHONY HALL

ほぼ
日刊サマーミュージック

Hobo Nikkan Summer Muza



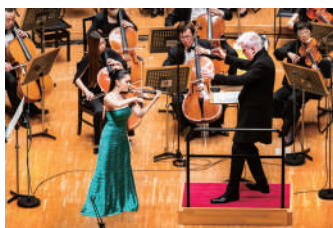
8/7 東京フィルハーモニー交響楽団 名コンビとともにアラビアンナイトの世界へ！ ©N.Ikegami

今年の「フェスタサマーミュージックKAWASAKI」の東京フィル公演の指揮者はダン・エッティンガー。現在同団の桂冠指揮者である彼だが今回の共演は3年ぶりとのこと、久々の再会で相当気合が入っていたのだろう、非常に白熱した演奏会(完売公演!)となった。

冒頭の「セビリアの理髪師」序曲からしてただならぬ表現意欲が窺えたが、続くメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲はまさに曲のイメージを一新するような演奏。この有名曲をなんと生涯初めて振るといふエッティンガーだが、とにかく振幅の大きいアプローチで、強弱やテンポを細かく揺らしつつ、ソリストを

挑発するように起伏の激しい音楽を生み出し、独奏の服部百音もそれに対して一歩も引かず、表情を濃やかに変化させながらオケと正面から渡り合う。特に弱音を多用しての語りかけるような表現にはこれまでと違う彼女の一面を見た思いだった。アンコールのパガニーニの「常動曲」も鮮やか。

後半のリムスキー=コルサコフ



の「シェエラザード」はエッティンガーの表出力溢れる音楽作りが全開となり、第2楽章中間部のおどろおどろしさ、第3楽章冒頭のこっぴりした歌い方、第4楽章のめくるめくような音楽運びをはじめ、随所で管楽器のソロによる独特な節回しなど、濃厚な表情付けと伸縮自在のテンポ変化のうちに壮麗な音の絵巻が繰り広げられた。ソロを務めたコンマスの三浦章宏はじめ、東京フィルの健闘ぶりも光る。

エッティンガーがこれほどまでに個性的な音楽を奏でる指揮者だったのかと再認識させられた演奏会だった。

(音楽評論家 寺西基之)



↑プレトークにて、笑顔をもせるマエストロ

ソリストをつとめた服部百音(左)、マエストロ・エッティンガー(中央)、コンサートマスター三浦章宏(右) ↓

お客様から

「作品がいかにユニークで特徴あるものかを解釈することに興味がある」と言われるエッティンガーさんの感性が十二分に表れた演奏でした。シェラザードでは明確にストーリーが感じられましたし、メンデルスゾーンは、服部さんの個性とも相まって初めて聴くが如くの新鮮な感動を味わえました。東フィルとの相性も抜群に良いです。本当に聴けて良かったです。(60代・おけらマン)/エッティンガーさん素晴らしい!大きな波を起こし、シェラザードの勇気と王の心の変化を表現した!(みゅーとん)/エッティンガーさんのパッションあふれる指揮、侍のような風情の百音さんとまるで対になって白熱のダンスを踊って見えるシーンがメンデルスゾーンの第3楽章でありました。こんなことは珍しいと思います。(60代・ミュージアありがとう!)/つい間違えてしまう人が後を絶たない、東響・都響・東フィルを日替わりで聴けるのもサマーミュージックならではの。念のため、今日は東フィル(...ですよね?) (60代・SonicMan) / 服部百音は芯のある響きで甘くないメンデルスゾーンが素晴らしい!ベートヴェンのコンチェルトも素晴らしかったが、一気呵成に弾くメンデルスゾーンも魅力的。エッティンガーは数年ぶりに聞く。対向配置で低弦が正面から聞こえ、ダイナミックレンジが広く響きが重なり名演奏でした。(60代・ブラムス)演奏が終わり喝采を受ける時の、団員の皆さんの笑顔。客席も同じ思いでしたよ。(50代・ダンさんのにわかファン)

配信控え室から

サマーミュージックは配信も充実!
見どころ・聴きどころや
配信の現場の声をお届けします。



オープニング映像で竹平さんと一緒に出演しているミュートンの声役にチャレンジしました。思いがけず声優としての才能に気づき自分でも驚いています。配信をご覧の皆さまに楽しんでいただきつつ、ミュートンの知名度が上がれば良いなと思ってガンバツト。(From 配信担当 K)

**上記レビュー公演のアーカイブ配信は
8/9(火) 正午から開始!**

【出演】
指揮：ダン・エッティンガー
(東京フィルハーモニー交響楽団 桂冠指揮者)
ヴァイオリン：服部百音

【配信限定コンテンツ】
オープニングインタビュー：
服部百音 (ヴァイオリン)
休憩時インタビュー：
坪井夏美 (第1ヴァイオリン フォアシュービラー)





感動必至！名演・好演をお聞き逃しなく

みなさんは「若い演奏者」にどのようなイメージをお持ちでしょうか。まだまだ勉強中？演奏で精一杯？ いえいえ、最近の音楽界は「若手」が活躍するニュースで持ちきりです。音楽大学オーケストラ・フェスティバルは、そんな若い演奏者たちの発表の場であり、切磋琢磨する交流の場でもあります。おすすめポイントを一挙にご紹介！

①第一線で活躍する指揮者との共演

本日出演の昭和音大は梅田俊明の指揮でブラームス：交響曲第2番を。毎年サマーミュージーザで好演を繰り返して、客席を驚きと感動で包み込むだけに期待が高まります。洗足音大はミュージーザでもおなじみのマエストロ秋山と出演。長年マエストロから指導を受け築いた信頼関係で濃厚なブラームス：交響曲第1番を奏でます。

②ここでしか聞けない「2校の競演」

複数の音大の演奏を聴けるのはミュージーザ&芸劇の音大オケ・フェスだけ！音大の組み合わせで選ぶもよし、曲目の組み合わせで選ぶもよし。4公演通し券で8音大聴こうと思っただけあなた、お目が高い！

③演奏者だけでなく、

「若い作曲家」にもスポットライトを開演前にエール交換として演奏するファンファーレ。実は毎年新作が作曲されているのです。若い作曲家の作品が演奏されるケースは決して多くありません。「今までのファンファーレだけ聞きたい」などコアなファンもいらっしゃいます。ぜひお早めにご来場いただき、世界初演にお立会いください。

第13回 2022年

11.23(水・祝) 12.3(土)

12.4(日) 12.10(土)

各日15:00開演

全席前定(税込)1回券 ¥1,000 / 通し券 ¥3,000

7.9(土) 発売開始

MUZA SYMPHONY HALL 東京芸術劇場

※12/3(土)、12/10(土)は東京芸術劇場で開催。お得な4公演通し券は、各ホール窓口・電話でお取扱い中！

【音楽大学オーケストラ・フェスティバル2022】会場：ミュゼ川崎シンフォニーホール

11月23日(水・祝)

昭和音楽大学 × 梅田俊明

ブラームス：交響曲第2番 二長調

洗足学園音楽大学 × 秋山和慶

ブラームス：交響曲第1番 八短調

12月4日(日)

東京音楽大学 × 広上淳一

ストラヴィンスキー：バレエ組曲「火の鳥」(1919年版) 他

国立音楽大学 × 尾高忠明

シベリウス：交響曲第2番 二長調



パートナーショップのご紹介
エンジョイ!
川崎!!
Enjoy Kawasaki

ふわふわたまごの オムライス

できたのはチキンライスの上に乗ったふわふわのオムレツ。

ぱっか〜ん!

ナイフでオムレツを開くと、ふわふわなたまごが溢れ出します。このとろふわな卵が最高!しっかりおなかに溜まって大満足です。ちょっと珍しい、卵で作ったミルクセーキも子どもや女性には人気です。演奏会の前後に、お腹に優しいふわふわ卵を入れてみてはいかがでしょうか?

(アルバイト500K)



B ラゾーナ川崎4F デリッシュ・ウフ

パートナーショップ特典

飲食代10%OFF ※クーポン持参者のみ

コンサートと一緒に
もうひとつのお楽しみ!

PARTNER SHOP

掲載店一覧はこちら

↑サービス対象店舗はこのPOPが目印! スマホからクーポン券を提示するだけで! クーポン券は7/23~8/11まで何度でも利用できます。公演がない日でももちろんOK!

フェスタサマーミュージーザ公式サイト
<https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/>

#サマーミュージーザ

#夏ジャン

で検索 & 投稿

お待ちしております!



Twitter: @summer_muza

Facebook: @kawasaki.sym.hall

Instagram: @muzakawasaki

私自身がナビゲーターとして心掛けていることは、共感。実は、元々私自身もサマーミュージーザの大ファンで、毎年足を運んでいたのです。皆さんと同じく、お客さんとしてのワクワク感を大切に、最後まで一緒に楽しんでいきたいです。(バックステージナビゲーター 竹平晃子)

急ぎよ招集された配信チーム。「ただ配信するのではなく、インタビュ等も入れてクラシック音楽番組の様に仕上げたい」というプロデューサーの熱い思いのもと、3年目の今年もチーム皆で試行錯誤しています。チーム全員が音楽が大好きなプロフェッショナル集団で、撮り方にもカット割りにも音のバランスにも愛がただ漏れな感じです(笑)

「サマーミュージーザを中止せず、有観客と配信のダブルで開催したい。約二十日間の配信で、案内役をしていただけませんか?」開催まで2ヶ月を切っていたコロナ禍の2020年6月上旬、ミュージーザの方から、このようなメールをいただき、私のバックステージナビゲーターが始まりました。

日刊サマーミュージーザ
Hobo Nikkan Summer Muza

スタッフ日誌